様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 １５ 日現在

機関番号：３２８０９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６４６３４３３

研究課題名（和文）性虐待児の早期発見と保護、予防のための専門職者育成のプログラムの検討

研究課題名（英文）Developement a program for training the Japanese child-care professionals, to early detection, protection, and prevention of sexually abused children.

研究代表者
久保　恭子（木村恭子）（Kyoko, KUBO）

東京医療保健大学・看護学部・教授

研究者番号：１０３２０７９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：日本人の子育て支援者むけの性虐待児の早期発見と保護、予防のためのポピュレーションアプローチとして使えるプログラムを作成した。このプログラムの特徴はＤＶＤや人形を効果的に使用したこと、性虐待や性虐待に関する知識の教授と共に、生殖器や性に関する言葉をソフトな表現にして嫌悪感を低下させたこと、保護施設等の情報を入れたことである。また、ディスカッションや相談の時間を設け、問題を抱えた参加者を専門機関につなぐようにした。さらに学習をしたい者にはリフカープログラム等の紹介を行った。プログラムの実施ができるスタッフの育成が今後の課題である。

研究成果の概要（英文）：We have developed a program for training the Japanese child-care professionals, which would enable a population approach to early detection, protection, and prevention of sexually abused children. This program is characterized by effective use of visual tools such as DVDs and dolls, moderate expression of the terms related to the reproductive organs and sex so as to make the participants feel less hatred while studying the knowledges about sexual abuse, and provision of information about the facilities of refuge and the like. The program also provides the participants who are tackling some problems with time for discussion or consultation to refer them to proper specialists. Further, this program can introduce the participants to other useful programs such as RIFCRTM and the like if they want to study more. How to develop the operators who can manage this program is a task for the future.

研究分野：小児看護学

キーワード：子どもの性虐待　予防プログラム　日本人むけ

１．研究開始当初の背景

海外の子ども虐待の動向から鑑みて、これから先 10 年、我が国の子ども虐待の課題として、性虐待児の早期発見と保護、予防やケアが急務となってくると考えた。子ども虐待のうち、身体的虐待やネグレクトは生命の危機に直結することも多く、看護師、保育士、幼稚園教諭、学校教諭、児童相談所職員、子ども支援センター職員などの子どもをケアする専門家（以下、専門家）も多くの学習の機会があり、被虐待児の理解が深まっているころであった。しかし、性虐待については語られない傾向が強く、先行研究をみても、人格障害児（者）と性虐待の既往、眼科感染症と性虐待等は散見されるが、多くが事例検討であり、現象の記述の域を超えていないことがわかった。また、性虐待の予防の重要性は記されているが、具体的な方法はないことも明らかになった。

海外の研究では、1990 年代に性虐待児のストレスと対処方法、性虐待児の長期的な支援、性虐待児とＨＩＶ感染のリスク、リフカープログラム(以下、リフカー)に関するものが散見された。リフカーは性虐待児への司法面接に関するものであり、日本でも一部の児童相談所で取り入れていたが、性虐待児の早期発見や保護、予防に関する知識や情報は一般的に不足していた。

当時から、私たちは専門家に性虐待の啓もう活動を実施していた。この中で、専門家の中にも性虐待に関する知識がほとんどないこと、性虐待をタブー視し積極的な関与を拒むものもいた。また、多くが性虐待は思春期の問題と認識し、幼児も性虐待を受けやすいという事実を知らなかった。これらの背景から、本研究の着想に至った。

２．研究の目的

日本における性虐待児の特徴、性虐待児の早期発見と保護、予防の方法を明らかにし、性虐待児と家族への支援ができる専門家を育成するためのプログラムを検討した。

３．研究の方法

（１）国内外の文献検討

（２）海外にて虐待予防を行っている研究センターとリフカーの視察

（３）日本にて性虐待予防活動を行っている専門家へのインタビュー調査の実施

（４）医療･福祉･看護系の大学で使用されているテキストの虐待に関する記述内容の分析

（５）日本国内でのリフカーの実施と評価

（６）日本人向け、性虐待児の早期発見と保護、予防のための専門家を育成するためのプログラムの作成と実施･完成

（７）（６）の修正と評価についてアンケートの実施

（８）海外のプログラムや日本の専門家らと情報交換、プログラムの再検討

（９）支援者同士の交流の場、性虐待者の相談窓口を設置

４．研究成果

（１）　国内外の性虐待に関する文献検討：

文献としては事例検討が多く、学会や学会誌等による特集などが目立った。中でも、2014 年に行われた国際子どもの虐待防止学会（名古屋）では、海外における（性暴力も含む）性虐待の現状、精神的な問題点について、盛んにディスカッションが行われており、日本のみならず、海外でも性虐待児の保護や対応は不十分であることがわかった。

（２）　海外にて虐待予防を行っている研究センターの視察

米国ミネソタ州のコナーハウスの視察を予定していた。日本人専門家より、コナーハウスで行っている性虐待プログラム・リフカーはすでに日本に導入されており、専門職者育成のためのトレーナー、トレーナーオブトレーナーも国内で育成されていた。このため、

渡米はせず、日本において、このプログラムを学習する機会を得た。また、米国の GUNDERSEN National Child Training Center の CAST プログラムの視察と実際の受講を希望したが、先方からメイルにて必要な情報の提供がなされたこともあり、渡米の必要がなかった。

（3） 日本にて性虐待予防活動を行っている専門家へのインタビュー調査

NPO 職員、虐待防止団体職員、医師などにインタビュー調査を行った。日本にある医療福祉、教育関係の大学において、虐待や被虐待児の保護に関する積極的な講義はほとんど行われていないという現状があること、性虐待予防についてはリフカーが普及しつつあり、リフカーであれば、ポピュレーションアプローチとしても使用が可能であろうということであった。また、情報提供として、日本看護協会で実施している小児救急看護師育成の中の被虐待児への支援プログラムを紹介いただいた。

（4） 医療福祉・教育系大学の講義で用いられているテキストの虐待に関する記述内容の分析

インターネットで、日本の医療福祉・教育系の大学のシラバスを確認し、用いられているテキストの虐待に関する記述の内容を確認した。結果、虐待の定義、被虐待児の特徴、法律、虐待死、病院内での虐待児の保護方法、通告義務等について記述があり、改訂版のテキストでは多くの新しい提供が掲載されていた。しかし、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待に関する内容が中心であり、性虐待児に関する情報は少なかった。

（5） 日本国内でのリフカーの実施と評価

年 2～4 回、リフカーの普及活動を行った。結果、リフカーは児童相談所職員や実際に性虐待児の支援を行っている施設職員にとっては満足のいくプログラムであったが、看護職や教員、保育職などには抵抗が強く、その理由として、表現が露骨であり気分が悪い、日本人になじまない、ロールプレイが非現実的、本を復唱させることに嫌気を覚える、参加費が高いなどがあがった。これらのことから、リフカーがポピュレーションアプローチとしてのプログラムにはなりえないことがわかった。

（6）日本人向け、性虐待児の早期発見と保護、予防のための専門家を育成するためのプログラムの作成と実施・完成

(5)の結果から、性虐待児の発見と保護に向けて、ポピュレーションアプローチとなるようなプログラムの開発、リフカーへの橋渡しとなるようなプログラムの作成が必要であることがわかり、米国 GUNDERSEN National Child Training Center の CAST プログラム、日本看護協会で実施している小児救急看護師育成の中の被虐待児への支援プログラムを参考に、プログラムの作成にとりかかった。

作成にあたり、リフカーや CAST との大きな違いは生殖器や性に関する言葉の使い方を日本国内で出版されている性虐待に関する書物を参考にわかりやすいソフトな表現にしたこと、日本の性虐待を含む虐待の歴史、統計、子どもの人権、法的制度、性虐待児の保護後の生活の様子、保護施設、虐待者(加害者)のその後(法的な手段を含む)、家族関係の様子などを盛り込んだ。既存のプログラムと同様の内容としては、性虐待児の特徴や保護方法、発見の仕方等であるが、これらは日本の書籍等の内容から構成をし、より日本人の視点、日本人の特徴、現状がわかるように配慮した。また、性虐待児のその後、抱えやすい問題点として DV や性暴力、性に関する問題、精神的な問題についてもプログラムに入れ込んだ。作成当初のものは、性的な表

現が生々しく不快、信じられない内容で不快感が強い、驚愕が強すぎるという反面、現実味がないなどの意見が多く聞かれた。そのため、海外の性虐待予防のためのDVD(子どもを守れ:性虐待の実態/ ChildFirstJapan 出版)を活用し、性虐待は現実に起きている重大な事項であること、部屋の明るさ、音量、気分不快が強いときは退出してよいこと、講義後、質問タイムや相談をうかがう時間を設けたことにより、不快感、恐怖感は軽減した。課題として、講義を聞いて初めて性虐待を受けていたと気がつく受講生がおり、専門機関との連携を強化した。また、被虐待児の動向や発見・保護に注目した内容であったが、保護後の子どもたちの様子、保護施設の状況、加害者側のその後について(法的手段も含む)の質問が多くあり、講義の中で、裁判や弁護士のコメント、保護施設の様子等についての内容を追加した。

（7） 性虐待児の早期発見と保護、予防のためのプログラムの実施後の参加者のアンケート調査の結果

本プログラムの参加者に質問紙調査を実施した。質問項目は、虐待の認識度、講義後、学んだこと、感想などを自由に記述してもらった。分析方法はSPSS20を使って単純集計、自由記述は KJ 法を参考にまとめた。無回答の多いものを除き、238 部を分析の対象とした。

① 子どもの性虐待に関する認識度

全員が子どもの性虐待について知っていたと解答した。知っていた内容として、性虐待の定義」「加害者が家族であること」「性虐待の被害者は女児が多いこと」「障害児も被害にあう可能性があること」「加害者が子どもを脅迫していること」「日本の虐待対策が遅れていること」があった。今回の講義後、性虐待について理解が深まったと回答した。

② 「子どもを守れ：性虐待の実態（DVD)」の感想

「外国はこんなDVDをつくるなんてすごい」「わかりやすい」というという肯定的な意見がある半面、話を聞いて不快になったが4名おり、「DVD が生々しくて気持ち悪い」「想像すると気持ちが悪い」があった。

③ 講義後の自由記述

自由記述は KJ 法を参考にしてまとめた。その内容は、加害者や被害者の特徴、虐待が身近な問題であること、諸外国と日本の虐待への取り組みの違いなど、子どもの虐待の知識が獲得できた、虐待に関する啓もう活動の必要性や、被虐待児の保護など、虐待防止のための社会的・教育的な支援が必要、虐待は残酷である、怖い、ひどいなどの虐待行為への感情、被害児がなかなか相談できない等、相談できない難しさがあるが、相談すべきだ、自分が親になったら絶対に虐待しない、自分の親が丁寧に育ててくれたことへの感謝など自分の親への感謝や親役割への反映、虐待はいけないことであると認識した、虐待の相談を受けたら対処したいなど救援者になる決意、加害者理解や支援の必要性、虐待連鎖などの可能性への理解がある反面、加害者への批判的な感情などの加害者理解の姿勢と嫌悪感、自分の怒りのコントロール、感情のコントロールが必要であるなどの虐待防止のための気持ちのコントロールの大切さがあった。さらに知りたい内容として、「子どもはどんなとき、自分が性虐待を受けていると、気がつくのか」「子どもを守る施設の様子・状況を知りたい」「どのように子どもを保護したのか、事例を聞きたい」「デート DV や性被害、性暴力との違い」「どのような性教育が性虐待を防止できるのか」学習したいという希望があった。

講義後、気分不快を訴えたものは4名おり、「性虐待行為の具体的な内容」「加害者が被害児に行っている脅迫の方法」「依然見た韓国の映画を思い出して気分が悪い」「被害児

が自殺未遂をすることがあると聞き、気分が悪くなった」「必要なことだとはわかるが、身の毛がよだつ」という意見があった。また、虐待経験者が3名、友人に被虐待児がいた(いる）が2名いた。また、受講後、大学生で1名から、父親と自分の関係を「もしかしたら自分も性虐待の被害者ではないか」と相談をうけ、専門機関を紹介した。

（8） 海外のプログラムや日本の専門家らと情報交換、プログラムの再検討

アンケートの結果や専門家からのアドバイスをもらい、本研究のプログラムの具体的な方法を以下のとおりとした。

実施前に、性虐待に関する話をすること、気分が悪くなった人は退出してもよいことを説明した。また、スライドやDVDを用いての講義であったが、照明は過度に暗くせず、音量等にも注意をした。次に、性虐待について話をする目的として、一般的に虐待＝タブーな話であり、聞いてはいけないこと、話してはいけないことと考えがちであるが、被害にあっている人がいれば助けてあげて欲しいという気持ちがあることを説明した。また、大学生には、子どもに携わる専門職者を目指している学生として、被虐待児の保護は使命であり、ぜひよく理解し、子どもの救援者となって欲しい旨を説明した。

前回のプログラムをベースに、統計などは最新のデータに入れ替え、また、性虐待に関する新聞記事等を組み入れ、性虐待が珍しいことでないことを印象づけていった。プログラムは導入としてDVD鑑賞15分、スライドや人形を使った講義50分、ロールプレイやグループでのディスカッション15分、5分振り返りの時間とし、1時間30分程度で終了できるように構成をした。講義の内容は子どもの虐待の歴史・概要・法律、最近の動向、虐待を受けた子どもの予後等について、子どもの虐待の定義や歴史、性虐待の定義、一般的な子どもの性の発達、性虐待を受けた子どもの特徴と発見の仕方、その後の話の聞き方等とした。さらに、興味のある参加者にはリフカー等のアドバンスなプログラムを紹介した。本プログラムの受講は無料である。

（9）支援者同士の交流の場、性虐待者の相談窓口を設置

本研究の研究者・積極的に性虐待に関する予防活動を行っているNPO法人職員にプログラムを説明、実施できるようにお互い学習をしあった。また、支援者同士の交流の場・性虐待者の相談窓口の設置については研究者のホームページ、NPO法人の窓口にて行っている。さらに、NPO法人のリーフレット等に性虐待予防に関する情報を載せ、啓もう活動に役立てた。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計4件）

① 久保恭子　宍戸路佳　草間真由美：高校生・大学生への性虐待・乳幼児揺さぶられ症候群の予防活動の実践報告と親性教育の効果、東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ、査読なし、第68集、2016、353-360

② 久保恭子　宍戸路佳　田崎知恵子　草間真由美：コモンセンスプログラム短縮版を用いた子ども虐待予防のポピュレーションアプローチの実践、東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ、査読なし、67集、2015、245-253

③ 宍戸路佳　久保恭子　坂口由紀子：未就学児を持つ母親のストレス解消法と望む子育て支援講座、横浜創英大学研究論集、査読あり、第2巻、2015、19－24

④ 及川裕子、久保恭子：乳幼児を持つ親のメンタルヘルスと関連要因、園田女子学園大学論文集、査読あり、第48号、2014、46－53

〔学会発表〕（計7件）

① 久保恭子、Sexual abuse and shaken baby syndrome prevention activities for high-school and university students and the effect on education of readiness for parenthood、第20回EAFONS、平成29年3月9日、「香港（中国)」

② 久保恭子、大学生向けの子どもの虐待防止活動の実践報告と効果、第22回日本子どもの虐待防止学会、平成28年11月25･26

日、「大阪国際会議場（大阪）」
③　久保恭子、性虐待児への対応プログラム RIFCR 研修の実践報告と評価・課題、第 22 回日本保育保健学会、平成 28 年 10 月 15･16 日、「岩手県立大学（岩手）」
④ 久保恭子、High-school students' learning experience about infants' characteristics and child abuse , XX111IFHE World Congless、平成 28 年 8 月 4 日、「大田（韓国）」
⑤　久保恭子、CSP 短縮版を用いた子ども虐待予防のポピュレーションアプローチの実践、第 21 回日本子どもの虐待防止学会、平成 27 年 11 月 21･22 日、「朱鷺メッセ（新潟）」
⑥　久保恭子、Analysis of what nursing students are aught about the subject of "sexual abuse"、第 10 回 INC、平成 27 年 10 月 21 日･22 日･23 日、「ソウル(韓国)」
⑦ 久保恭子、Review of previous studies about early detection and protection of sexually abused children、国際家族看護学会第 12 回大会、平成 27 年 8 月 18～21 日「オーデンセ（デンマーク）」

〔その他〕
https://www.family-health.jp/

６．研究組織
(1)研究代表者
久保　恭子（Kyoko KUBO）
東京医療保健大学･東が丘立川看護学部・教授
研究者番号：10320798

(2)研究分担者
田崎　知恵子（Chieko TAZAKI）
日本医療保健大学･看護学部･教授
研究者番号： 00389892
坂口　由紀子（Yukiko SAKAGUCHI）
日本医療科学大学・看護学部・准教授
研究者番号： 00438855
倉持　清美（kiyomi KURAMOCHI）
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号： 30313282
岸田　泰子（YasukoKISHIDA）
共立女子大学･看護学部･教授
研究者番号： 60294237
市村　彰英（Akihide ICHIMURA）
埼玉県立大学･社会福祉学部・教授
研究者番号： 70363786

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
草間　真由美（Mayumi KUSAMA）
宍戸　路佳（Mika SHISHIDO）